

秋の七草になぞらえた

## 太田 金山と七福神めぐり

新井 昇

太字記の里、群馬県太田市には歴史をしのびながら歩ける里山がある。市街地に接し標高200m前後の小丘陵に、悠然とそびえる金山である。

新田一族の山城があった所で丘陵全体が国の史跡に指定され、復元され市民の憩いの場所となっている。山頂の金山神社には新田義貞が祭られている。

市内には七福神と秋の七草になぞらえた七つの寺がある。これらを組み合わせると約14.5を歩いてみよう。休憩場所と水洗トイレは至る所にあるので心配はない。

東武線浅草駅から伊勢崎線の特急りょうもう号に乗れば約1時間20分、準急でも約2時間10分で太田に到着する。

太田駅北口から駅前通りを北に向かう。

大通りで左折し西に進むと長金寺・大光院の道標がある。

道路に沿って長金寺がある。応永元年(1394)開山で、七福神は應比壽・漁業・高岩繁盛の神である。秋の七草は撫子の寺だ。

大通りを右折して八瀬川に沿って北に進む。カラーレングを敷きつめた一方通行の道だ。桜並木と川のせせらぎ、そこに遊ぶ鯉を眺めながら歩く。途中のあずま屋で休憩するのも良い。

橋を右にすぐに左に折れる。下車橋から大光院、その裏に金山が見える。里門の奥の境内も広い。本堂前に樹齢700年の臥龍の松が目を見張る。

慶長18年(1613)徳川家康が多層上寺から存続上人を招いて開山し、子育て春

その先の分岐で左に進むとモータープールの展望台に出るが、寄り道をして右に行き、あずま屋で太田市内を一望した方が見晴らしが良い。

なだらかな道を金山に向かって進む。ここから金山城跡の始まりだ。大手前から発掘調査中の横を通ると、石垣と堀切・建物の一部が復元された月の池や日の池も再現されている。

左上上の物見台には2等三角点が右に開かれて鎮座している。復元された櫓からは、

天気の良い日には富士山や赤城山・標名山・妙義山も見えるところのこと。

今回は、南には太田市街が、北には石尊山・仙人ヶ岳・赤雪山・多高山や大島屋山が見える。

石段を登ると金山山頂だが、新田神社となっており、一回りしてみたが展望はなかった。石段を下り、売店の横にある樹齢800年の大ケヤキ、その裏の藤棚から東へ下る。ここには道標が無いので注意を要する。太田市内を一望して左手に下れば良い。

赤土の滑りやすい、曲がりくねった道を下る。敵が攻めて来た時の備えであったのだろうか、湧き水のある神明宮に出る。

ゆるい坂道を下り最初の十字路にある道標で水福寺を確認し、ほぼ道なりに進む。金山山頂の大ケヤキが風に揺れているのが見える。

水福寺には丁字路を左に曲がり道なりに行くと着く。応永24年(1447)金山城主横瀬貞良氏の再建で、金山城の鬼門に当たり城を守るという。七福神は寿老人、長寿延命の神で、秋の



太田七福神略図



月の池